

全員協議会の議事録抜粋を、一読して疑義を持った部分を整理しました。
該当ページは9ページから13ページまでです。

◆9ページ（～10ページ）

- (1) 用地取得難航による工期短縮のため、常陸太田市側からも掘削するとしているが、工期は令和9年～11年としていて短縮されていない。
- (2) 用地取得難航と説明している、トンネル工事に直接関係する用地は、日立側から掘削するのには無関係。
- (3) 用地取得難航中ため、必要な仮設進入路の追加で6億円増加と言っているが、追加した仮設進入路の延長や幅員などから見て6億円も必要なのか？ 6億円の内訳を正しく提示すべき。
- (4) 橋梁工事の追加分12億円も用地取得難航のための進入路の追加と説明しているが12億円のうち用地取得費と事業補償費など内訳、元の地権者を明確にすべき。
- (5) 道路改良の工法変更で、法面のコンクリート吹付にしたほかで11億円の内訳も出すべき。
- (6) はたそめ団地内の生活環境調査や土地収用に伴う調査設計とは具体的に何で、そのためにいくら増額しているのか。この部分だけで増額12億円も増加するという内訳を出すべき。

◆11ページ

- (7) 建設関係業者の所有地があり、適正な価格で取得していると説明しているが、用地費と事業補償費その他建設関係業者に支払った金額の内訳を開示すべき。

◆12ページ

- (8) あくまで市が事業決定してすぐに(建設関係業者が)購入した土地というのは、ほぼなくて当然。市が事業決定したのは平成30年3月。問題は議員が指摘している県道として真弓ルートを決めた前後に広大な土地を地上げした動機、目的と価格であり、平成30年以降に市がこれをどういう土地費目で取得し事業補償費その他をいくら支払っているかである。異常な増額11億円とか12億円という内訳はほとんど用地取得費ではないかと疑わざるを得ない。改めて確認すると言っているで、確認結果をきちんと納得いくまで説明すべき。

◆13ページ

- (9) 建設工事デフレーターを根拠にして、平成30年から令和6年までの工事費が1.2倍だから、令和6年の現在から令和9年までの工事費、令和11年までの工事費は今と同じで問題ないと説明しているが、直近6年間で1.2倍ということは年間2%以上の値上がりということ。今後、令和6年から令和9年までの3年間だと6.1%上昇、令和11年までなら10%以上の値上がりとなる。すなわち、令和6年11月のトンネル工事費見通しが135億円ならば、令和9年には143億円、令和11年までなら平均しても10億円以上増額の可能性がある。建設部長の説明は全く説得力が無い。
- (10) 当然のことだがトンネル以外も同様であり、不足分46億円というのは不足分60億円になっても不思議ではない。

とりあえず気づいた点